

第3章 第2次・健康たかつき21（健康増進計画・食育推進計画）の評価

前計画のうち健康増進計画では、基本理念である「誰もが安心して健やかに暮らせるまちづくり」の達成状況を評価する指標として、「高槻市総合戦略プラン」の健康に関する3つの指標「健康寿命の延伸」、「3大死因による年齢調整死亡率の減少」、「10万人当たりの自殺者数（自殺率）の減少」に「『第2次・健康たかつき21』を知っている人の増加」を加えた4つの指標を基本目標に設定しました。これに伴い、本市では、これらの基本目標の達成を目指し、7つの分野別及びライフステージ別、地域別に取り組を進めてきました。

また、食育推進計画では、基本理念である「『食育』ではぐくむ 健康 みんなの未来～おいしく たのしく 食楽のまち たかつき～」を目指し、各取組を進めてきました。

本章では、行政や関係機関・団体等の取組の進捗状況を把握・整理するとともに、アンケート調査結果や各種統計値の現状等から前計画の評価と今後の課題について記載しています。

なお、前計画の目標指標69項目の達成度を示した一覧表は、参考資料130～137ページに掲載しています。

最終評価の数値は、平成28年度（2016年度）に実施した「高槻市民の健康づくり・食育に関するアンケート調査」や平成27年度（2015年度）もしくは平成27年（2015年）の実績値より算定しました。小・中学生については、平成21年度（2009年度）は小学6年生と中学3年生を対象にしたアンケート、平成28年度（2016年度）は小学5年生と中学2年生を対象にしたアンケート結果となっています。なお、目標達成度（円グラフ）の比率の合計は、端数処理の関係で100.0%とならない場合があります。

また、本計画では、健康増進計画と食育推進計画を完全統合した新たな計画となるため、前計画の目標項目の廃止、修正に伴い、平成28年度（2016年度）のアンケート調査結果や各種統計値による評価を行うことが困難な項目が多数あります。

ライフステージ
(年代)

【乳幼児期】	0～5歳
【学童期】	6～12歳
【思春期】	13～19歳
【成年期】	20～39歳
【壮年期】	40～64歳
【高年期】	65歳以上

1. 健康増進計画

【基本目標】

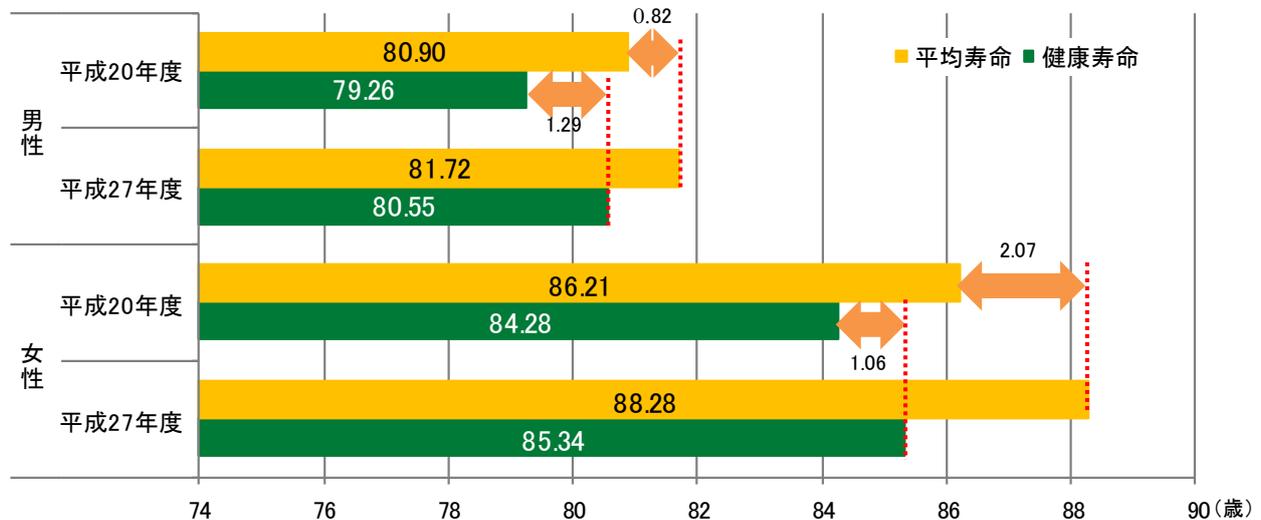
目標達成度	
◎	目標値を達成している
○	目標値には至っていないが、策定時値より改善している
×	目標値に至っておらず、策定時値より改善していない

①健康寿命の延伸

目標達成度	
男性◎	女性○

目標項目		策定時値 (平成20年/2008年)	現状値 (平成27年/2015年)	目標値
男性	健康寿命	79.26	80.55	平均寿命の増加分を上回る健康寿命の増加
	平均寿命	80.90	81.72	
女性	健康寿命	84.28	85.34	
	平均寿命	86.21	88.28	

平均寿命と健康寿命



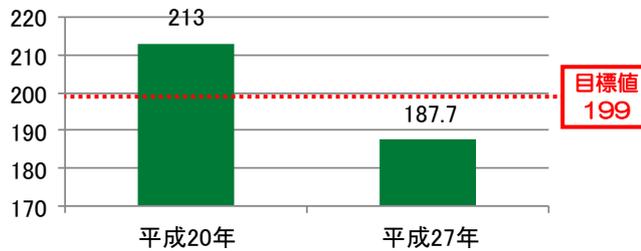


②3大死因による年齢調整死亡率の減少

目標達成度
◎

※3大死因：主に生活習慣病に起因するがん、心疾患、脳血管疾患による死因のことをいう

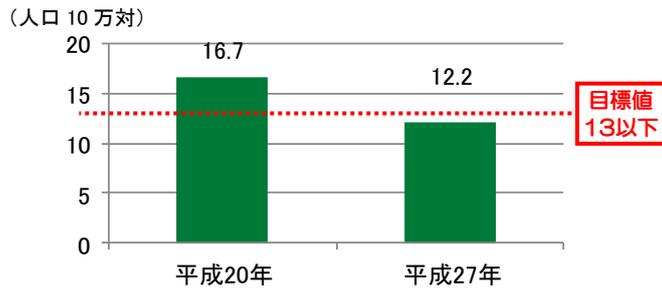
3大死因による年齢調整死亡率



③10万人当たりの自殺者数（自殺率）の減少

目標達成度
◎

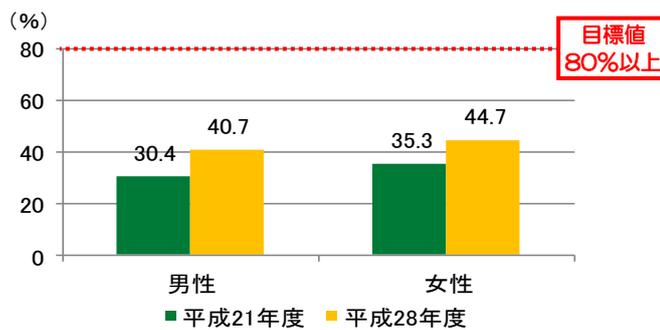
10万人当たりの自殺者数（自殺率）



④「第2次・健康たかつき21」を知っている人の増加

目標達成度	
男性○	女性○

「第2次・健康たかつき21」を知っている人の割合



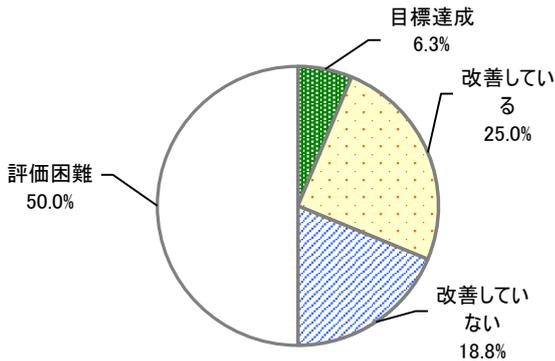


【分野別・ライフステージ別】

①栄養・食生活

目指す姿：一人ひとりが自分の体と食生活について考え、望ましい食習慣を身につけている

目標達成度

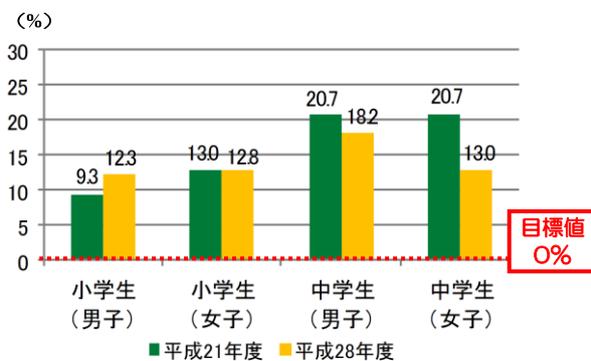


主な取組

食育SATシステムを使った体験型栄養指導や小・中学校での給食を通じた指導などを行い、それらの取組を通じて、栄養バランスの良い食事や朝食の重要性、適正体重を維持するための食生活などを啓発しました。

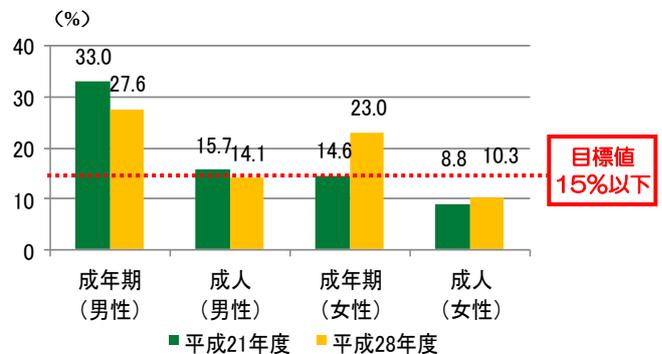
- 子どもの朝食欠食者の割合は、全体的には減少傾向であり、特に中学生で大きく減少していますが、依然として朝食を食べない日がある子どもが見受けられます。
- 成人の朝食欠食者の割合は、子育て世代を多く含む成年期（20～39歳）で高く、特に女性で大きく増加しています。

朝食欠食者の割合（小学5年生・中学2年生）



※平成21年度は小学6年生と中学3年生のデータ

朝食欠食者の割合（成年期・成人）



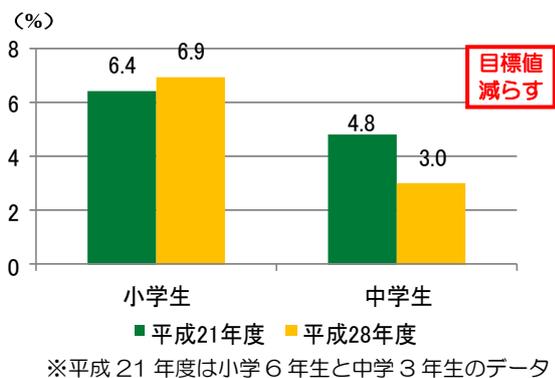
※目標値が設定されていたのは、成人では20歳代及び30歳代男性のみ



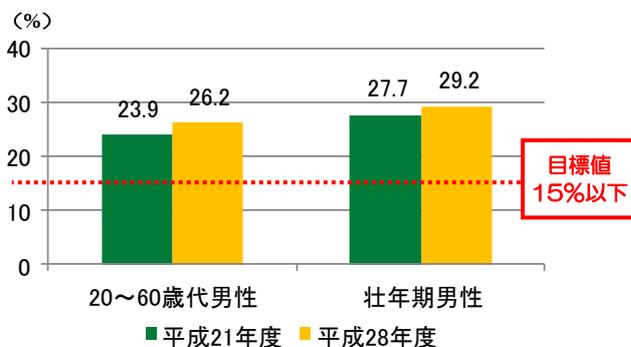


●肥満児の割合は、中学生では減少していますが、小学生では大きな差異はみられません。
成人では20～60歳代男性、壮年期（40～64歳）男性の肥満者の割合が増加しています。

肥満児の割合（小学5年生・中学2年生）



肥満者の割合（20～60歳代男性・壮年期男性）



※肥満児：日々式肥満度【{自分の体重(kg) - 標準体重(kg)} ÷ 標準体重(kg) × 100】が20%以上
※肥満者：BMI【体重(kg) ÷ 身長(m) ÷ 身長(m)】が25以上

課題

【学童期・思春期】

- 朝食欠食者の割合は、全体的に減少しているものの、依然として朝食を欠食する子どもがいます。
- 小学生の肥満児の割合は、大きな差異はなく、減少していません。

【成年期】

- 朝食欠食者の割合は、男女ともに目標値には至っておらず、特に女性の割合が増加しています。

【成年期・壮年期】

- 男性の肥満者の割合が増加しています。

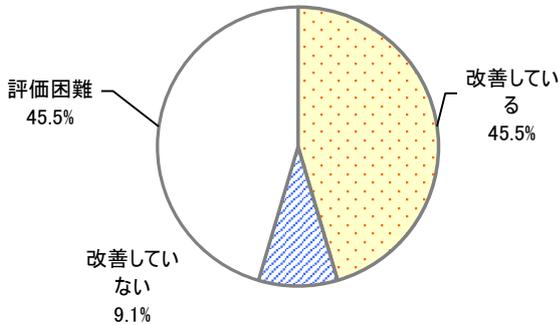




②身体活動・運動

目指す姿：自分に合った運動を楽しく続けることができている
地域活動などを通して社会とのつながりを持っている

目標達成度



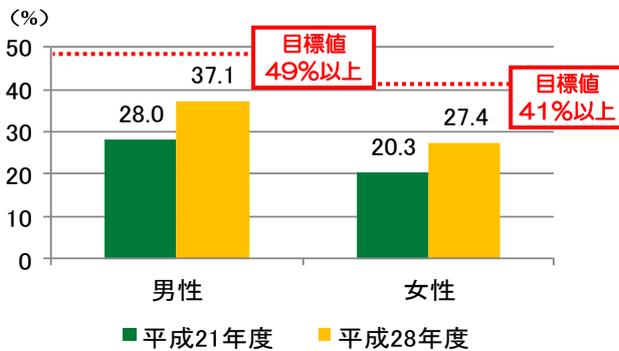
主な取組

地域や市イベントでの体組成計測定などにより、身体活動・運動への興味を高めました。

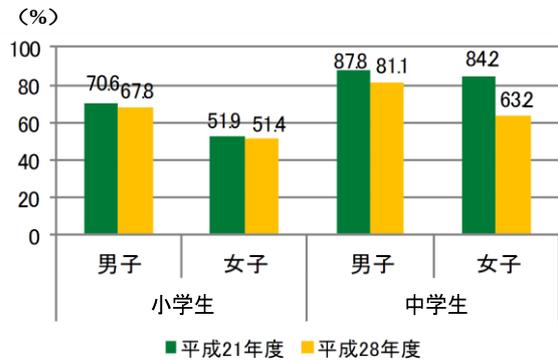
また、地域でウォーキングイベントや運動教室などを行うことで、実践を促すとともに、参加しやすい外出の機会を設定しました。

- 成人では運動習慣者の割合は増加していますが、目標値までは至っていません。また、運動習慣のある子どもの割合は減少しています。

運動習慣者の割合（成人）



体育の授業以外で週3日以上運動している子どもの割合（小学5年生・中学2年生）



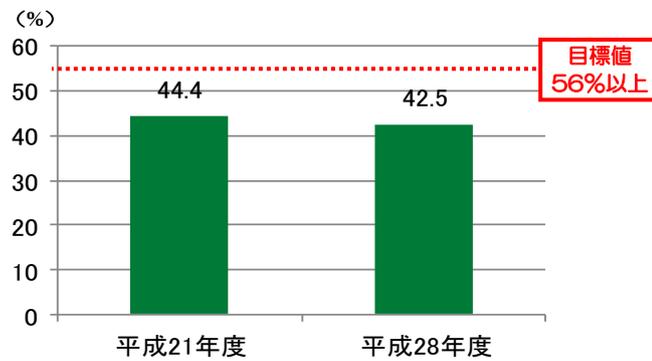
※平成21年度は小学6年生と中学3年生のデータ
※目標値設定はなし





- 80歳以上において、外出について積極的な態度を持つ人の割合が減少しています。

外出について積極的な態度を持つ人の割合（80歳以上）



課題

【学童期・思春期】

- 運動習慣のある子どもの割合が減少しています。

【成人】

- 運動習慣者の割合は増加しているものの、目標値までは至っていません。

【高年期】

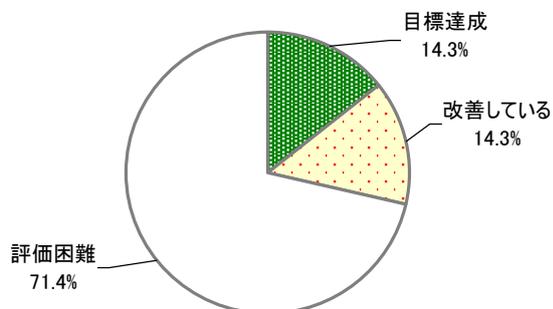
- 80歳以上で、外出について積極的な態度を持つ人の割合が減少しています。



③休養・こころの健康づくり

目指す姿：十分な睡眠がとれて、自分に合ったストレス解消法を身につけている

目標達成度

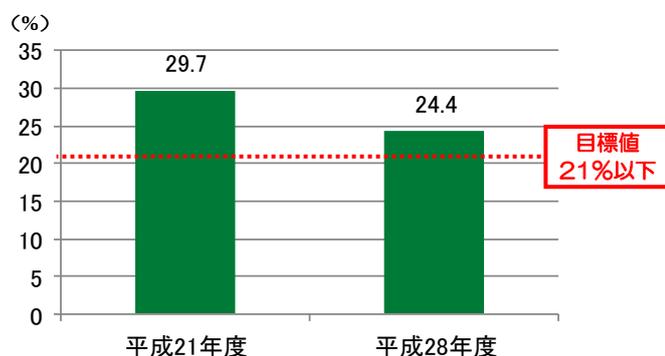


主な取組

各ライフステージに応じて、電話や面談等による子育て相談やこころの健康相談、スクールカウンセラーの派遣、各種イベント・講座・研修（ゲートキーパー研修、精神保健ボランティアの育成）などを実施しました。

●睡眠による休養を十分にとれていない人の割合は減少傾向ですが、目標値には至っていません。

睡眠による休養を十分にとれていない人の割合（成人）



課題

【成人】

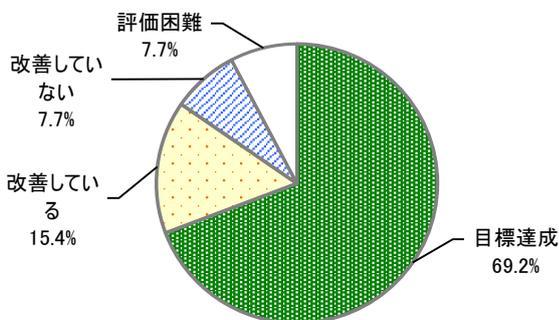
●睡眠による休養を十分にとれていない人の割合は減少傾向ですが、目標値には至っていません。



④歯の健康

目指す姿：歯の健康に対する意識を高め、定期的に歯科健康診査を受診する

目標達成度



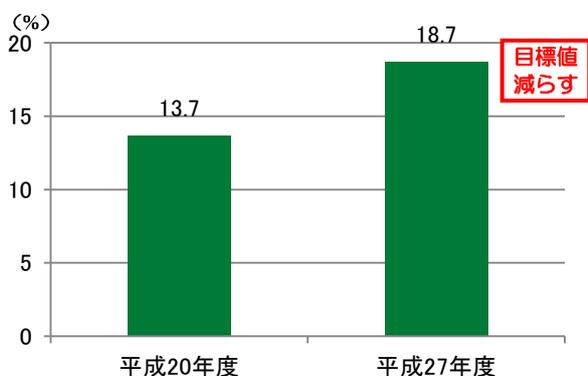
主な取組

乳幼児期からの定期的な歯科健康診査や歯みがき教室などを実施し、歯科疾患予防に取り組みました。

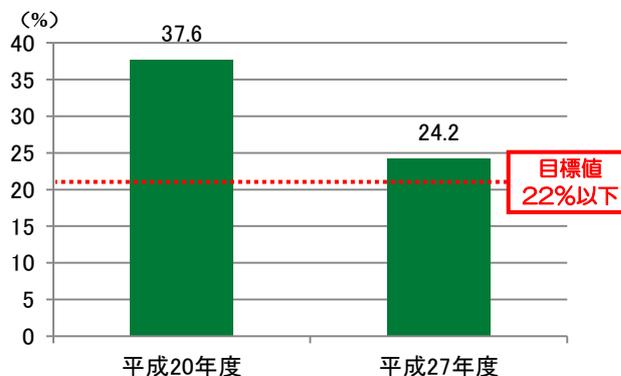
また、成人において、歯周病の健診及び予防に関する啓発を行いました。

- 進行した歯周炎を有する人の割合は、40歳（35～44歳）では増加しています。一方、50歳（45～54歳）では減少していますが、目標値には至っていません。

進行した歯周炎を有する人の割合
(40歳 (35～44歳))



進行した歯周炎を有する人の割合
(50歳 (45～54歳))



※高槻市歯科健康診査より

課題

【壮年期】

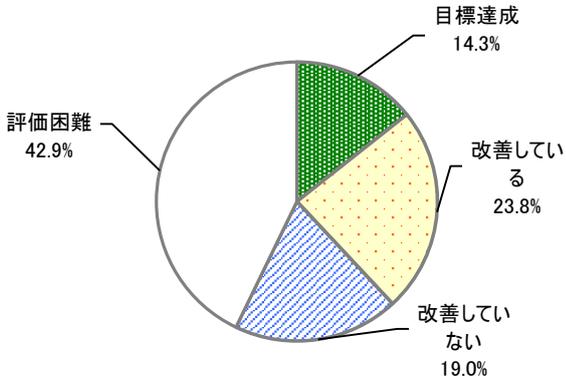
- 進行した歯周炎を有する人の割合は、40歳（35～44歳）では増加しています。一方、50歳（45～54歳）では減少していますが、目標値には至っていません。



⑤たばこ

目指す姿：喫煙の影響を知り、子どもも大人もたばこを吸わない

目標達成度

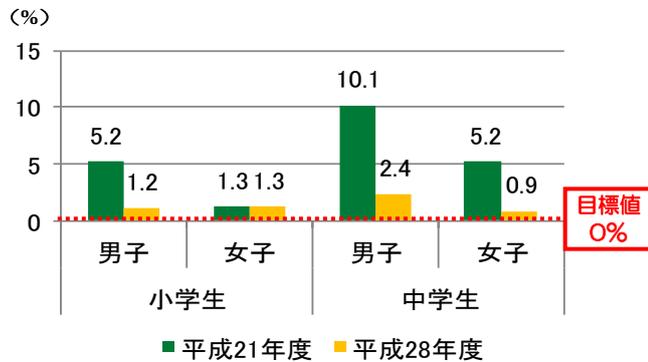


主な取組

公共施設の禁煙・分煙による受動喫煙の防止や喫煙に関する正しい知識の普及・啓発、禁煙支援、未成年の喫煙を予防するために、中学高校・保健所思春期対策連絡会を通じて、教育用資材の貸し出しやパンフレットの提供などを行いました。

●喫煙経験のある子どもの割合は、特に中学生で大きく減少しましたが、喫煙したことがある子どもが依然として見受けられます。

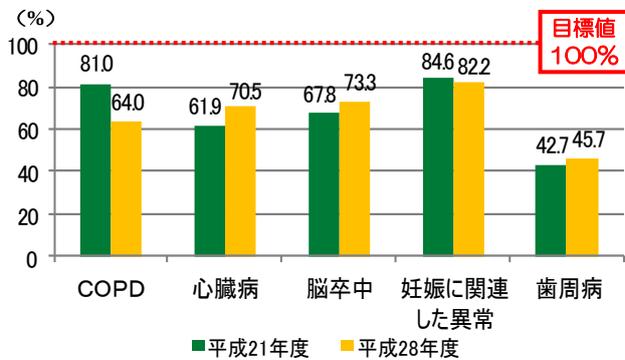
喫煙経験のある子どもの割合（小学5年生・中学2年生）



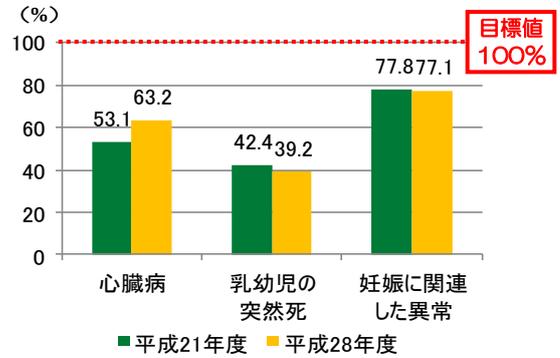


●喫煙や受動喫煙による健康影響についての認知度は十分とはいえません。

喫煙が及ぼす健康影響についての認知度
(成人)



受動喫煙が及ぼす健康影響についての認知度 (成人)



課題

【学童期・思春期】

●喫煙経験のある子どもの割合は、特に中学生で大きく減少していますが、喫煙したことがある子どもが、依然として見受けられます。

【成人】

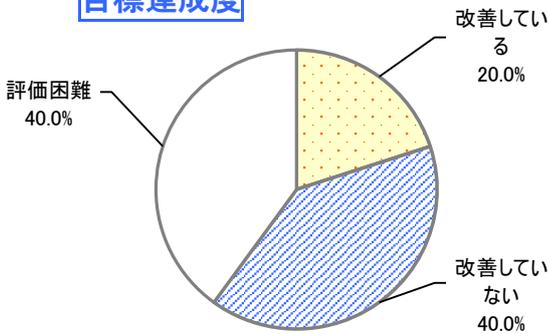
●喫煙や受動喫煙による健康影響についての認知度は十分とはいえません。



⑥アルコール

目指す姿：子どもはお酒を飲まない
大人は節度ある、適度な飲酒を心がけている

目標達成度



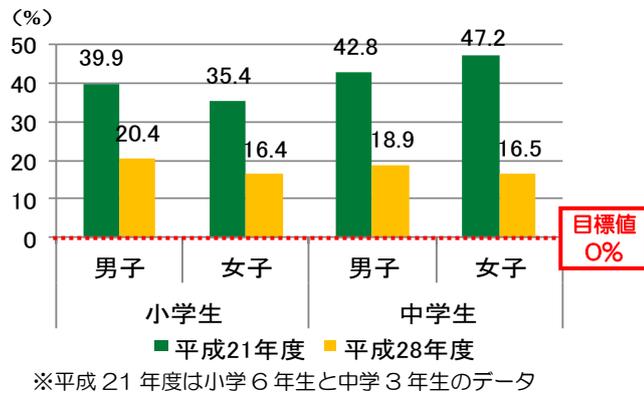
主な取組

個別相談や出前講座を通じて、飲酒の適量の周知・啓発を行ったり、地域で活動している断酒会などの自主グループへの支援を行いました。

また、地域のイベントなどへの参加の声かけ等を通じて、社会参加を促すことで、多量飲酒者の早期発見と社会からの孤立防止に取り組みました。

●飲酒経験のある子どもの割合は、減少していますが、依然として飲酒経験のある子どもが見受けられます。

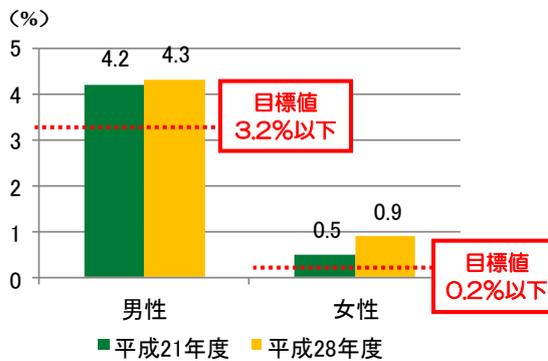
飲酒経験のある子どもの割合（小学5年生・中学2年生）



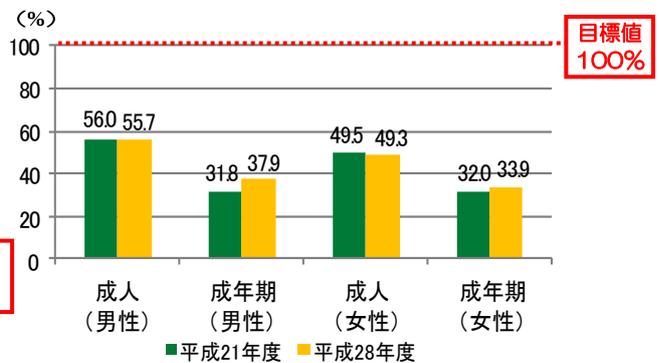


- 多量に飲酒する成人の割合は、男女ともに大きな差異はなく、目標値には至っていません。また、「適度な飲酒」の知識の普及も十分ではなく、特に成年期（20～39歳）での認知度は増加傾向ですが、依然として低い割合となっています。

多量飲酒する人の割合（成人）



「適度な飲酒」の認知度（成人・成年期）



課題

【学童期・思春期】

- 飲酒経験のある子どもの割合は減少していますが、飲酒経験のある子どもが依然として見受けられます。

【成人】

- 多量に飲酒する人の割合は、男女ともに大きな差異はなく、目標値に至っていません。
- 「適度な飲酒」についての認知度は十分とはいえません。

【成年期】

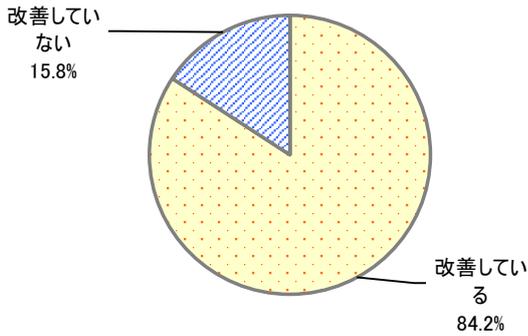
- 「適度な飲酒」についての認知度は、増加傾向であるものの、依然として低い割合であり、十分とはいえません。



⑦健康チェック

目指す姿：定期的に健（検）診を受診し、生活習慣病の早期発見・早期治療に努めている

目標達成度



主な取組

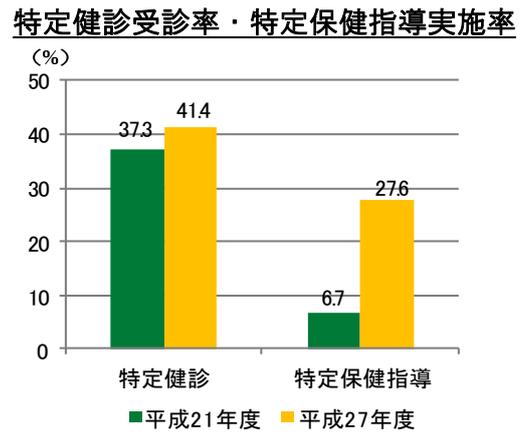
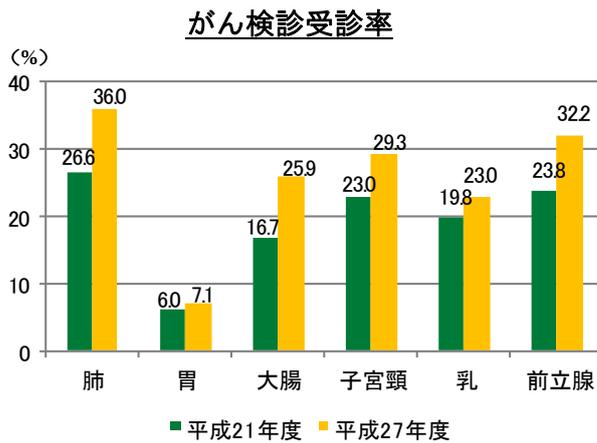
がん検診では、平成27年（2015年）9月に受診料を無料にするとともに、土日検診や保育付き検診の実施など、受診しやすい環境の整備に努めました。

特定健診では、健康づくり推進リーダーや自治会を通じた受診勧奨を行いつつ、未受診者への電話勧奨や個別案内を行いました。また、がん検診との同時実施や土日健診、医療機関の少ない地域

での集団健診の実施など、様々な工夫を重ねてきました。

特定保健指導では、特定健診の結果返却時に初回面接を行うとともに、その後も保健師や管理栄養士による面接・電話・手紙などによる支援を継続して実施しました。さらに、生活習慣病の重症化予防として、該当者に対し医療機関への受診勧奨や生活習慣改善指導の強化に取り組みました。

●がん検診・特定健診・特定保健指導において受診率・実施率は増加しているものの、目標値までは至っていません。



課題

【成人】

●がん検診及び特定健診の受診率、特定保健指導の実施率は増加しているものの、目標値までは至っていません。



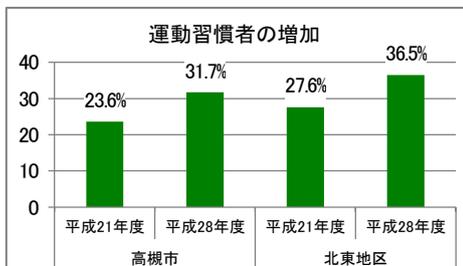
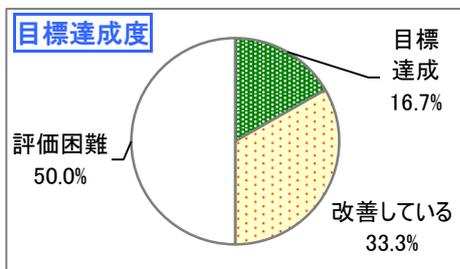
【地域別】

市内を4地区に分け、各地区で重点的に取り組む分野を決めて、各地区の特性に応じた健康課題に対する取組を実施しました。

北東地区

行動目標：
 バランスのよい食事と、運動を楽しみながら続けましょう
 1日の食事の中で家族と食事をする機会を増やしましょう

主な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・食事や運動の正しい知識の普及のための出前講座を実施しました。 ・ハイキングや運動会等を通じて、楽しみながら体を動かす機会を提供しました。
結果	<ul style="list-style-type: none"> ・運動習慣者が増加しました。 ・参加したことのない人に地区の行事等に参加してもらうことが難しい状況です。

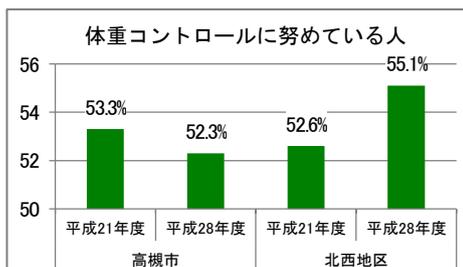
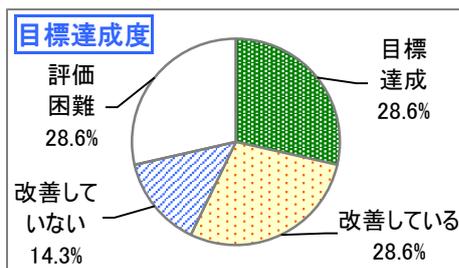


※目標値については、136 ページ参照

北西地区

行動目標：
 若い時から意識的に体を動かし体重コントロールに努めましょう
 1日の食事の中で家族と食事をする機会を増やしましょう

主な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・地区のイベントで、体重や筋肉量を意識するための体組成計測定を実施しました。 ・地域で開催している運動の教室やイベントへの参加を積極的に勧奨しました。
結果	<ul style="list-style-type: none"> ・周りからの声かけにより、体操教室やグラウンドゴルフに参加する人が増加したものの、運動習慣者は減少傾向です。特に女性での運動習慣者の増加が必要です。 ・体重コントロールに努めている人は地区全体で増加しましたが、20～30歳代で減少しています。



※目標値については、136 ページ参照

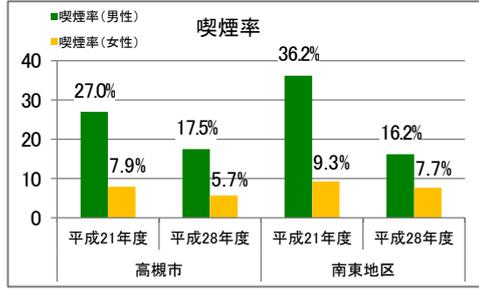
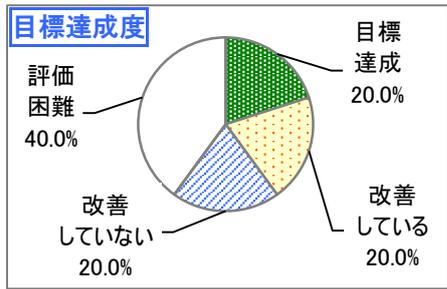




南東地区

行動目標：
禁煙・適度な飲酒を心がけ、健康を維持しましょう
朝食の大切さを知り、毎日食べる習慣をつけましょう

主な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・3世代食育講座などの出前栄養講座の中で、朝食の必要性を啓発しました。 ・地区のイベントや講座などで禁煙・適度な飲酒を啓発しました。
結果	<ul style="list-style-type: none"> ・依然として朝食を欠食する子どもがいます。特に小学生で増加傾向です。 ・喫煙率は男性では大きく減少したものの、女性での減少は緩やかになっています。

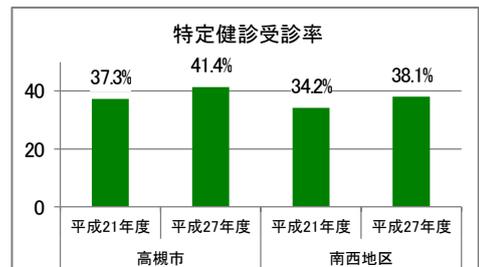
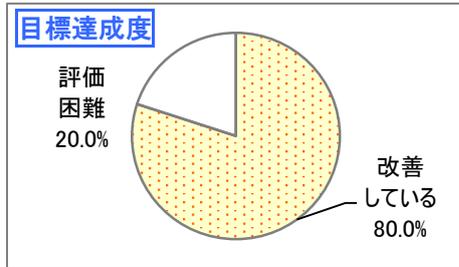


※目標値については、136 ページ参照

南西地区

行動目標：
年に1度は、健（検）診を受けましょう
朝食の大切さを知り、毎日食べる習慣をつけましょう

主な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・地域で積極的に健診の受診勧奨を実施したり、健診の実施日に合わせて地区の行事を実施しました。 ・学校での野菜づくりや調理実習を通じて、「食」の大切さを子どもの時期から考えることができるよう啓発しました。
結果	<ul style="list-style-type: none"> ・特定健診受診率は増加しました。 ・依然として朝食を欠食する子どもがいます。特に中学生で増加傾向です。



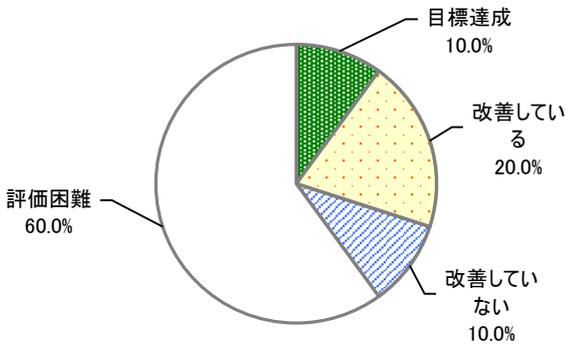
※目標値については、136 ページ参照





2. 食育推進計画

目標達成度



主な取組

各種クッキング教室や地区の健康づくり推進リーダーと協力して3世代食育講座を開催し、調理実習や一緒に食べることを通じて、楽しい「食」や「食」を通じたコミュニケーションの充実を図りました。

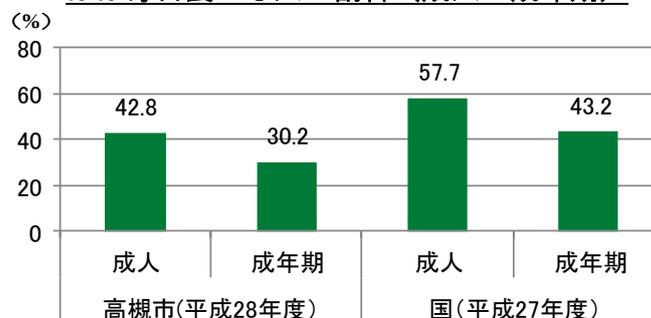
小・中学校では、高槻産農産物を使用した給食を提供する取組や地元農家の協力による農業体験学習などを行うことで、「食」の大切さへの理

解や「食」に関する感謝の念を醸成しました。また、子どもや保護者への「早寝・早起き・朝ごはん」の大切さの啓発や栄養バランスの良い給食の提供と献立の紹介を通じて、健康な体を保つための望ましい食生活を啓発しました。

「食」に対する興味の高揚を目的に実施していた「食育フェア」は、健康分野と食育分野の連携を強化し、より効率的・効果的に実施することを目的として、平成28年度(2016年度)から「健康フェア」と統合し、「市民の健康・食育フェア」として開催しています。

- 主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上ほぼ毎日食べる人の割合は、全国の割合と比較すると低くなっています。特に、成年期（20～39歳）では、成人全体よりも低い割合となっています。

主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上
ほぼ毎日食べる人の割合（成人・成年期）



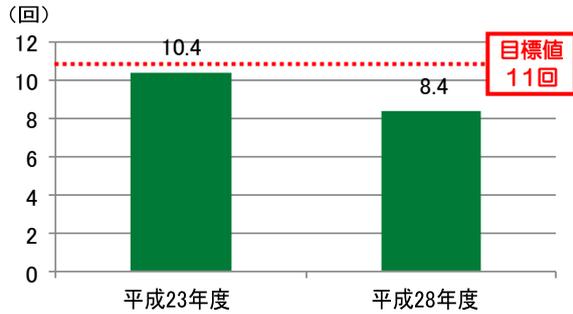
※国の数値は、「第3次食育推進基本計画」より





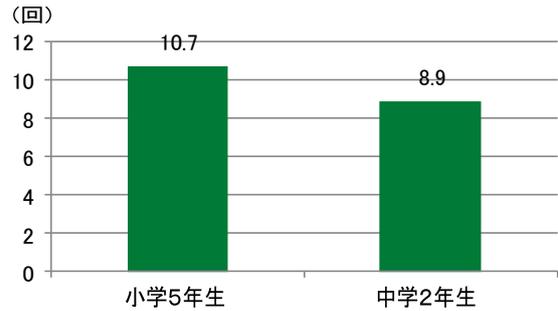
- 朝食又は夕食を家族と一緒に食べる「共食」の回数は、成人では減少しています。また、子どもでは小学生より中学生の方が少なくなっています。

共食の回数（成人）



共食の回数（小学5年生・中学2年生）

【平成28年度/2016年度】



※共食の回数：朝食と夕食の回数を足して週当たりの回数を算定（最大14回）

課題

【学童期・思春期】

- 「共食」の回数は、小学生より中学生の方が少なくなっています。

【成人】

- 主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上ほぼ毎日食べている人の割合が、全国と比較して低い割合となっています。
- 「共食」の回数は減少しています。

